

自然を生かした地域活動の実践



地域づくり 月山エコ・プロジェクト主宰 白田 孝人

「月山エコ・プロジェクト」とは？

私は、「自然と人とを相手にした仕事がない」と思い、大学卒業後七年ほど続けたコンピュータプログラマーの仕事を辞め、平成八年に「月山エコ・プロジェクト」を立ち上げた。

「月山エコ・プロジェクト」とは、月山と朝日山麓の雄大な自然をフィールドに、地元の宿泊施設や自然体験施設との連携を図りながら、ボランティアスタッフの協力を得て、自然体験プログラムの企画と実施を行っている団体である。春は月山山麓トレッキング・ツアー、夏は登山、秋はブナ林と紅葉トレッキング、キノコ狩りやリース作り、冬にはスノーシューイングや、ネイチャースキーなど一年を通して自然体験活動プログラムによって、「自然と人との接点を大切にしたライフスタイルの形成」を目指している。

近年の自然環境問題やレジャー、趣味の自然派志向によって、都市部を中心に豊かな自

然への要求が高まっている。それに伴い、これまで行政や学校教育が中心となつて行われてきた自然体験活動のなかに、「月山エコ・プロジェクト」のような民間の活動も少しずつ増えてきた。一年目には、わずか八本であった、「月山エコ・プロジェクト」のプログラムも、二年目に二十本、三年目には四十本、そして昨年は四十六本と、年々本数を増やしている。

参加者は県外からも多く、特に関東地方からの参加者は、毎回約六割を占めている。参加者の年齢層も広がっており、五十代を中心に、二十代、三十代、さらには、小学生の参加者も見られるようになった。

参加者の多くは、「自然が好きだから」という単純な動機ではなく、「本物の自然に触れたい」という強い意志を持って、遠いところからやって来る人が多い。県内からの参加者も同様で、身の回りにある自然から、さらに一歩踏みこんだ自然を求める人が増えてきている。おそらく現代社会においては、私たちの

プログラムに参加している人の何千倍と言う人々が、生活と自然との接点を探し求めているであろう。

住民レベルの組織づくり

このように、「自然を求める人」が増えていくなかで、自然体験活動を提供する機会は、さらに増えていかなければならないが、これらの人々を受け入れる具体的な方策は、皆無に等しいのが実状である。自然体験活動では施設等のハードの充実はあるものの、本来伝えたい「意志を持ったソフト」がまだ無いのである。さらに、人々の自然に対するニーズが多様化し、質の高いプログラム、継続的なプログラム、「プログラムを実施する優れた人材」が必要とされているのも事実である。多くの人が求めているこれらのニーズに、自然活動団体が応えていくためには、行政だけにそれらを任せておくのではなく、「自由な発想と自由な活動」ができる「住民レベルの組織づくり」が必要となる。行政と民間が個性



ネイチャースキーツアー

を尊重し合い、その中でそれぞれの役割を見いだすことが出来てはじめて、地域一体となった自然体験活動が展開出来ると考えている。また、自然体験活動団体にとっては、このような活動が一つの職業として確立されること、つまり活動を専門に行なって収入を得ることが出来るということは、多様なニーズに応えていくために重要な事であると考えている。

「月山エコ・プロジェクト」で行われているプログラムは、活動の意味を深く理解し、支援してくれる人々によって成り立っている。それらの人々は、地元の宿泊施設のオーナー、

役場職員、県立自然博物館や月山朝日ガイド協会などで働く人々であり、本業の傍ら宿泊地を提供して下さったり、山歩きのリーダーとして指導して下さったりと、プログラムのあらゆる面で、協力、助言して下さる。また、実際のプログラム運営には、ボランティアスタッフが協力してくれる。彼らの協力無くしては、現在のような活動はあり得ない。

ボランティアスタッフは、二十代後半～三十代の男女約十名で、それぞれ仕事をもち、なかには家庭を持っていて、スタッフもいる。彼らの中には、将来独立して、自然活動団体をやりたいというスタッフもいれば、プログラムに参加した時の楽しさをまた味わいたいと、スタッフに加わった者もいる。

「月山エコ・プロジェクト」を支えてくれる人々は皆、自然活動を一方的に提供する側ではなく、「参加者と一緒に、楽しみたい」という思いで参加している。自然体験をしたい人々を沢山集めることも大事だが、いかに情熱を持った人が関わるかは、もっと大事なことである。

今後の展望

今後、自然を求める人々が増えることは間違いない。それに伴って、全国各地で自然体験活動が展開され、活動団体も増加してくるであろう。

そのような中、われわれ「月山エコ・プロジェクト」が活動している西川町のように自然資源に恵まれた地域は、自然を求める人々に対して「情報の発信源」となるべき条件を満たしている。

単なるリゾート開発や行政による地域おこ

しではなく、そこに住む人々が地元の自然を有効に利用し「西川町」にしかない、自然や風土に根ざした地域づくりやツーリズムをすすめていくことが必要である。また、それらの活動を積極的に情報発信することも必要になってくる。

そのために「月山エコ・プロジェクト」は身近な地域と関わり、地域に親しみ、それらの良さを生かした活動を、長期的な計画のもとで実現し、地域に関わる人々が情熱を持って活動できる機会を提供していきたいと思っている。

このような地道な取り組みのプロセスこそが、自然と共生する地域づくりへの確実なアプローチになると考えている。行政頼みの一過性の地域おこしは数多くあるが、地域における「個人」という小さな力でも、地道かつ着実に良いものを作り出すことができることを「月山エコ・プロジェクト」に関わる人々が実践していきたい。

白田 孝人

月山エコ・プロジェクト主宰
 農林水産大臣公認 森林インストラクター
 月山朝日ガイド協会 理事
 1966年生まれ。日本大学経済学部卒業後、コンピュータープログラマーとして勤務。平成7年より、山形県立自然博物館において自然観察指導員として勤務。平成8年より「月山エコ・プロジェクト」の活動を開始。
 「月山エコ・プロジェクト」のホームページ
<http://www.ne.jp/asahi/gassan/ecopro/index>